

令和 3 年 6 月 19 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16K02612

研究課題名(和文) Migration, Memory, and Literature: Mapping Japanese Nationalism in Nikkei Communities in Peru, Bolivia, and Argentina

研究課題名(英文) Migration, Memory, and Literature: Mapping Japanese Nationalism in Nikkei Communities in Peru, Bolivia, and Argentina

研究代表者

間藤 茂子 (Shigeko, Mato)

早稲田大学・国際学院・教授

研究者番号：90579468

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：目的は、日系ペルー・ボリビア・アルゼンチン社会におけるナショナリズムの構築と変貌を文学・文化作品を通して探究することであった。リマにある日秘文化会館とボリビア、サンタ・クルーズ県のオキナワボリビア歴史資料館で調査と資料収集を行なった。コロナ感染前は、ペルー、ボリビア以外にアメリカ議会図書館、シカゴ大学図書館で資料収集を行なった。日系ボリビア、アルゼンチンに関する研究は進まなかったが、日系ペルー人のナショナリズム的な記憶の構築とそれを掻き乱す文学・文化作品についての研究は進んだ。その結果、図書1冊、論文(学術誌)3本、学会発表論文1本、図書章の論文5本を発表し、国際会議でも発表を行なった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

南米ペルー・ボリビア・アルゼンチンに渡った日本人が移民共同体の中で、日本ナショナリズムがどのように構築され、変貌したかを文化・文学作品を通し研究した。日系移民証言の記録に関する歴史学・社会学的研究は進んでいるが、文化・文学作品に現れる移民の他の記憶を分析した。主流で均一化された証言とは何なのか、それに合わない証言の意味を探究した。文化・文学作品から浮かび上がる多様な証言を示すことで、1分野の研究領域では見逃されがちな側面を映し出すことができた。また、知られる日系人の記憶を表すことで、日本に構築された記憶は単なる1面に過ぎなく、記憶を振り返り更新していくことの大切さを提示する研究である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this project was to explore how Japanese nationalism was constructed in Peru, Bolivia, and Argentina at the end of the 19th century and beginning of the 20th century and how it has been transformed since then. I conducted research at the Japanese Peruvian Cultural Center in Lima, the immigration museum at the Okinawa Association of Bolivia, Santa Cruz, Bolivia, the Library of Congress in D.C. and other libraries in Peru and U.S. Due to the Covid-19, my plan to visit the Association of Japanese in Argentina in Buenos Aires was cancelled. Though I did not advance the studies on Japanese Bolivian and Japanese Argentine literary and cultural productions, my research on Japanese Peruvian migration and memory through literary products advanced. I published a book in Lima, three peer-reviewed articles, one conference proceedings paper, and five peer-reviewed book chapters. I also presented my papers at international conferences in New Zealand, Ecuador, Peru, and Spain.

研究分野：日系ペルー文学

キーワード：日系ペルー文学 日系人の記憶 南米日系人社会

1. 研究開始当初の背景

本研究は、ペルー社会に置ける日系ペルー人アイデンティティの構築と変換を、日系ペルー文学作品を通し考察した前研究に基づくものである。2014年度にスペイン語圏・ポルトガル語圏・アジアの接点を文学・文化作品を通して考える国際学術大会、引き続き2015年度にラテンアメリカ・アジアの関連を美術・視角芸術作品を通して考える国際学術大会を開催した。それぞれの大会でボリビアに置ける日系人社会、アルゼンチンに置ける日系文学の存在について学び、「日系性」についての研究をペルーのみではなく、ボリビア・アルゼンチンにも広げる可能性が浮上した。また、それ以前に日系ペルー人作家、ドリス・モロミサトとアウグスト・ヒガの作品分析とインタビューを通し、日系ペルー人のアイデンティティだけではなく、移民・移民の子孫の記憶がどのように構築され変貌されていったのかに焦点を向けていた。国際大会での研究者との意見交換、ペルーで行った作家とのインタビューにより、ペルー・ボリビア・アルゼンチンに置ける「日系性」と日系人の記憶を考察する本研究は生まれた。研究当初に注目した点は、日本帝国政府が南米への移民を積極的に斡旋した19世紀後半に遡り、日本ナショナリズムが上記3国へ到着した時点から、どのように「日本人性」が「日系性」に変貌し、その過程でどのような記録が残され、またどのようにその記録が変化しているのかであった。

2. 研究の目的

本研究の目的は以下の4点であった。

1. 20・21世紀の日系ペルー・ボリビア・アルゼンチン人作家による文学・文化作品に表象されている日本ナショナリズムの分析
2. 構築された「日本人性」のイメージと変形されたイメージの分析
3. 均一化された日系共同体の記憶の意味とそこに隠された記憶の分析
4. 日系共同体の記憶に存在する「日系性」とそれを複雑化し多様化する日系作家の文学・文化作品の意義の探索。

3. 研究の方法

方法は、主に図書館での資料収集をし、先行文献にない新しい理論構成を見つけ出し、それを文学分析に適用する方法であった。最初に、日系ボリビア・アルゼンチン人による作品がどのくらい存在するのか検索した。また、19世紀の日本ナショナリズムの文献を収集した。資料収集は、国内では沖縄県公文書館、国外では、日秘文化開館の図書室(リマ)、オキナワボリビア歴史資料館(サンタクルーズ、ボリビア)、アメリカ議会図書館、シカゴ大学、ウイスコンシン大学本校・ミルワーキー校、カリフォルニア州立大学 ロスアンジェルス校の図書館で行った。問題であった点は、日本、南米、アメリカ、どの国の図書館・資料館でも、日系ボリビア・アルゼンチン人作家の情報と資料が入手できなかったことである。現時点で、日系ボリビア人作家は1名、アルゼンチン人作家は2名のみ発見できた。また、アルゼンチン人作家の調査に関しては、最終年度は新型コロナウイルスの感染拡大により計画していたアルゼンチン現地での調査ができなかった。一方で、研究期間中にペルー人作家による作品、それに関する文献が多く出版された。また、日系人以外の作家が日系ペルー人に関わる作品を出版し始めた。

資料収集・検索と同時進行で、先行文献を総合的にまとめ、日本人の移民史、移民のナショナリズムと記憶を学際的に探究する新し理論構成を考え出した。しかし、日系ボリビア・アルゼンチン人作家の主要文学作品が見つからなかった為、研究内容を日系ペルー人作家著作品と日系ペルー人に関する文学作品の分析に変更せざるを得なかった。メモリースタディーズ、カルチュラルスタディーズ、ポストコロニアルスタディーズ、ジェンダースタディーズ、リテラリースタディーズを含む研究分野を総合に適用し学際的なアプローチを生み出し、日系ペルー人の共同記憶がどのように構築され変貌したのかを探究した。記憶の構築の過程には、ペルーの制度化された人種差別、日本人・日系人の自らの人種意識が関連していることを明確にし分析した。

次の手段は、文学作品を読み込むことで、クローズリーディング(close reading)を上記の理論構成を適用することであった。国外で開催された国際学会で研究発表し他の研究者からの建設的なコメントを基に研究論文の校正を何度も繰り返した。仕上がった論文を全て1冊の本にまとめようとしたが、理論構成が共同体の記憶の構築と変貌に関するテーマに絞り過ぎであることに気づき、総合的に見ると考えに繰り返しが多く活力がない図書になってしまう傾向にあった。そこで最終的には以下の手段を取った。

どの論文が、査読付き学術誌、学術的興味を共有している研究者が編集している図書の1章、図書に向いているかを分類した。その結果、図書を出版するに当たって、「継ぎ接ぎ細工」のアプローチを取り1冊の本にまとめた。

4. 研究成果

上記にあるように、図書1点を出版した。題名は、『Las voces que entrecruzan el Peru y Japon』(ペルーと日本を横断する声)でスペイン語でリマの Murrup Ediciones から2021年3月に出版された。本図書には、沖縄系ペルー詩人ドリス・モロミサトの沖縄人の移民体験を描いた詩集、星野智幸著の日系ペルー人の主人公が自分の場所を日本で探す姿が描かれている小説、日系ではないペルー人作家ルイス・アリオラ・アヤラの自身の「偽日系人」としての出稼ぎ経験を基に作成された短編小説、父親が親日派であったペルー人作家セレンコ・ベガ・ハコメの日系人の記憶とペルーの1980・90年代の「恐怖の時代」の記憶を重ね、記憶の記録とは何なのかをテーマとした短編小説の分析が含まれている。それぞれの章は何からの形で日系ペルー人に関するテーマに触れているが、前に言及したように、それぞれのテーマの焦点は多様で「継ぎ接ぎ細工」を分析手段として1冊の本にまとめた。統一性に欠けているというコメントを出版社の読者から受けたが、反対に、統一性欠乏の性質を巧みに利用し以下の質問を投げかける機会にした。「日系文学」とはいったい何なのか？日系人が描写されている文学が日系文学なのか？日系人が創作した作品が日系文学なのか？「日系文学」という仮の名称を複雑化し、ラテンアメリカ文学と日本文学の間ではどの位置に置かれるべきなのか、地域文学の間にはどのようなネットワークが存在するのか、などの疑問点が浮かび上がり、今後の研究プロジェクトの出発点に結びついた。

本図書以外に、査読付き論文を3本、学会紀要論文1本、他の研究者が編集に関わった査読付きの図書の1章を5本発表した。また、国際会議・学会での研究発表をペルー、エクアドル、スペイン、ニュージーランドで行った。さらに、招待パネリストとして発表を行った。上で述べたように、今回の研究を通し、挑戦したい課題が浮かんだ。次の研究プロジェクトでは、ラテンアメリカとアジアの地域区間及び周辺に存在する多様で複雑な日系人の記憶のネットワークを探究する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 4件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Shigeko Mato	4. 巻 17
2. 論文標題 Hogar de pertenencia y desplazamiento: una respuesta de Jose Watanabe a la categoria de "poeta nikkei"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 SinoELE Monograficos	6. 最初と最後の頁 739-749
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Mato Shigeko	4. 巻 23.13
2. 論文標題 Unsettling the Japanese Peruvian Legacy of Suffering: Madman in Augusto Higa Oshiro's "Polvo enamorado"	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Iberian and Latin American Research	6. 最初と最後の頁 207~218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/13260219.2017.1452681	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Shigeko Mato	4. 巻 42
2. 論文標題 A Japanese Peruvian Boy's Urban Wandering in Search of a Proper Place: Reading "Extranjero" by Augusto Higa Oshiro as "the Chorus of Idle Footsteps"	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Cincinnati Romance Review	6. 最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Shigeo Mato	4. 巻 6.1
2. 論文標題 Contemplating Jose Watanabe's Eye through Roland Barthes's Photographic Eye	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Transmodernity	6. 最初と最後の頁 71-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Mato, Shigeko.
2. 発表標題 Dialogando memorias silenciadas en un relato peruano: una lectura de “El japonés Fukuhara” (2017) de Selenco Vega Jacome como un espacio de “la hospitalidad narrativa.”
3. 学会等名 XXV Congreso Internacional de Literatura y Estudios Hispánicos (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Mato, Shigeko
2. 発表標題 En virtud de rescatar los textos hispanohablantes en el Japon salvaje
3. 学会等名 Presentacion del libro: Historia cultural de los hispanohablantes en Japon por Araceli Tinajero, Instituto Cervantes Tokio (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shigeko Mato
2. 発表標題 Haciendo visibles a los migrantes invisibles: un choque afectivo en "Lolo"(2013) de Luis Arriola Ayala (Lima, 1972)
3. 学会等名 ALADAA (Asociacion Latinoamericana de Estudios de Asia y Africa) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shigeko Mato
2. 発表標題 Performing Memories of Okinawa in Peru: On "Okinawa existe" (2013) by Augusto Higa Oshiro
3. 学会等名 LASA (Latin American Studies Association) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mato Shigeko
2. 発表標題 Saboreando la colonialidad del poder en Rizoma (2013) de Carlos Yushimito del Valle
3. 学会等名 Literatura y Estudios Hispánicos (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shigeko Mato
2. 発表標題 Japanese Peruvian Writer Augusto Higa 's Challenge to the Legacy of Suffering
3. 学会等名 Association of Iberian & Latin American Studies of Australasia (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 Shigeko Mato	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Murrup Ediciones (Lima)	5. 総ページ数 108
3. 書名 Las voces que entrecruzan el Peru y Japon	

1. 著者名 Shigeko Mato (Eds. Axel Gasquet and Gorica Majstorovic)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Palgrave	5. 総ページ数 159-176 book chapter (chap10)
3. 書名 Book chapter "Quiet revenges: The infinite intensity of the silenced history of Japanese Peruvians in Carlos Yusimito del Valle 's 'Ciudad de Cristal.' " IN Cultural and Literary Dialogues between Asia and Latin America.	

1. 著者名 Shigeko Mato (Ed. Frederick Luis Aldama)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 139-151 book chapter (chap11)
3. 書名 "Villain or Victim?: Undermining the Memory of Japanese Peruvians in Augusto Higa Oshiro's Gaijin (Extranjero)" IN Routledge Companion to Gender, Sex and Latin American Culture	

1. 著者名 Shigeko Mato (Ed. Axel Gasquet and Georges Lomne)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Pontificia Universidad Catolica del Peru Fondo Editorial	5. 総ページ数 283-310 book chapter
3. 書名 "La memoria recuerda y perturbada en 'Okinawa existe' de Augusto Higa" IN Extremo occidente y extremo oriente: herencias asiaticas en la America hispana	

1. 著者名 Shigeko Mato (Ed. Ignacio Lopez-Calvo)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Salem Press (Ipswich, MA)	5. 総ページ数 42-65 book chapter
3. 書名 "'The Coloniality of Power' in the Twenty-First Century Peruvian Story, 'Rhizoma' by Carlos Yushimito del Valle" IN Critical Insights: Latin-American Fiction	

1. 著者名 Shigeko Mato (Ed. Koichi Hagimoto)	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Cambridge Scholars Publishing	5. 総ページ数 178-195 book chapter
3. 書名 Rethinking Hybrid Identity of a Peruvian Migrant Worker in Japan in Gambate頑張って(2011) by Luis Fernando Arriola Ayala IN Trans-Pacific Encounters: Asia and Hispanic World	

〔産業財産権〕

〔その他〕

ペルー日系人協会が発行している雑誌Kaikanに自身のインタビューが掲載された。(Revisit Kaiakn, no. 116, 2018, pp.16-18).

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------